

# 川崎競輪場再整備基本計画

## 概要版

平成 22 年 9 月

川 崎 市

# 川崎競輪場再整備基本計画の概要

## 1 川崎競輪場再整備の考え方

### 富士見周辺地区整備基本計画(H20.3策定)

- ①公園との調和に配慮すること
- ②既存バンクを活用し現在地でコンパクト化すること
- ③コンパクト化により敷地の一部を公園区域に転換すること
- ④多目的な利用が可能となる施設をめざすこと

### 富士見周辺地区整備基本計画に基づく整備の考え方(改訂版)(H22.3策定)

- ⑤「第1段階のコンパクト化」と「将来のコンパクト化」の段階的な整備を行うこと
- ⑥持続可能な事業運営をめざした整備を行うこと
- ⑦メインスタンドを耐震化すること
- ⑧防災等のまちづくりに貢献すること
- ⑨競輪施設等整備事業基金を財源とすること
- ⑩イメージアップの取組を検討すること
- ⑪将来のあり方を継続的に検討すること

第1段階のコンパクト化…富士見通り側を除く敷地の一部を公園区域に編入し、メインスタンドの耐震化を実施

## 2 競輪場再整備(第1段階のコンパクト化)の基本方針について

### <競輪場再整備のメインコンセプト>

競輪場再整備は、既存バンクを活用し、次のメインコンセプトに基づき段階的に整備を行い、市民に親しまれる競輪場として富士見公園との共存・調和を図り、魅力と活気あふれた施設としてサイクリススポーツによる賑わいを創出するなど、富士見周辺地区の魅力を高め、まちづくりに貢献します。

### サブコンセプト

- |                        |  |
|------------------------|--|
| ①公園と調和した市民が入りやすい環境づくり  | ●公園との空間連続性を持った競輪場のエントランスの整備<br>●西エリアを公園のアメニティ機能を有したエリアとして施設整備<br>●競輪場敷地の一部(7,500㎡)を公園敷地に転換<br>●バスロータリーの競輪場西側への設置 |
| ②市民と競輪ファンが楽しめる施設づくり    | ●市民や競輪ファンがともに居心地よく感じられる空間づくり<br>●競輪場の愛称について検討  |
| ③市民開放・市民利用の推進          | ●常設ステージのあるイベント広場や、バンク内の芝生広場を整備   |
| ④スポーツ・健康増進エリアとしての施設づくり | ●競輪場を活用したサイクリススポーツ普及への取組の推進<br>●スポーツ競技施設としてのレジャー化と若者・外国人観光客誘致  |
| ⑤公園の防災機能充実に向けた貢献       | ●再整備による広域避難場所としての市民受け入れ態勢の強化   |

### メインコンセプト I

公園との一体感を感じられる空間づくり

### メインコンセプト II

持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり

- |                      |   |
|----------------------|---|
| ①市財政貢献に向けた収益力の強化     | ●重要な収益源の場外発売を積極的に実施<br>●GIレースの開催を招致できる環境の整備   |
| ②川崎競輪場の魅力の維持・向上      | ●現在地で再整備を実施し、他場にはないアクセスの良さを維持<br>●飲食店の豊富さと味の良さを再整備後も維持・向上<br>●屋内で投票や飲食を楽しめるよう、競輪観戦環境を整備 |
| ③集客力に応じた施設の再編・最適化    | ●需要に合った施設規模とし、運営コストを低減<br>●収容人員を約51,000人から約20,000人に最適化<br>●来場者数の変化に応じた弾力的な施設運用の実施       |
| ④事業内容に即した機能の集約・効率化   | ●東西エリアの投票所や飲食店を西エリアへ集約<br>●投票所の窓口数を300窓から250窓へ見直し                                       |
| ⑤環境に配慮した施設・設備のリニューアル | ●設備のリニューアルによる安全性、機能性の向上<br>●太陽光発電を利用した照明設備を設置   |

## 3 競輪場再整備による施設の考え方

### 施設づくりの考え方

- |  |   |
|--|---|
| (1) 市民利用の推進に向けた施設づくり   | (2) 競輪事業の持続的な運営に向けた施設づくり  |
| 1) 公園との共存・調和の推進<br>○富士見公園と調和した競輪場メインエントランスの整備<br>○公園のレストハウス機能を有する新施設などの整備<br>○イベント実施が可能な広場・子どもたちが遊べる広場の整備<br>○市民の多目的な施設利用の推進 | 1) 施設の再編・最適化による収益力の強化<br>○収容人員の最適化 ○投票窓口数の最適化   |
| 2) 市民のスポーツ・健康増進の推進<br>○新選手管理棟内トレーニングルームの市民利用の検討<br>○イベントなどを通じた取り組みの推進  | 2) 競輪場機能の集約・効率化<br>○投票所機能及び飲食店を西エリアに集約<br>○場外発売を効率的に実施する環境を整備                           |
| 3) 広域避難場所としての機能強化<br>○メインスタンドの耐震化など ○防災用備蓄倉庫整備の検討  | 3) 施設・設備のリニューアル<br>○メインスタンド耐震化 ○新選手管理棟の建設<br>○太陽光発電を利用した照明設備の設置など<br>○コンパクト化に伴う東西エリアの整備 |
|  | 4) 競輪場のアメニティの向上   |

・富士見周辺地区の用途地域の変更手続を踏まえながら、事業を推進していくことが必要  
・競輪場が都市計画法における都市計画公園の区域内にあるため設計要件などを調整しながら事業を推進していくことが必要

## 4 市民利用について

現在、競輪場は市民祭りや中小企業大運動会などで利用

### 再整備による施設整備

西エリアの公園レストハウス機能を併せ持つ新施設や常設ステージのあるイベント広場、バンク内の芝生広場の整備を行い、市民利用を推進

市民利用の実施に当たっては、競輪開催日や地元競輪選手の練習時間との調整を図ることが必要

### 多目的な市民利用の推進

●イベント広場の単独利用及びバンク内の芝生広場やスタンドとの一体的な運用により多目的な利用が可能

- (1) 市民向けの多様なイベントの開催  
・「音楽のまちかわさき」などと連携した大規模イベント・屋外コンサートなど  
・市民祭りの充実、カワサキハロウィンなどと連携した取組
- (2) バンク内の芝生広場の開放  
・バンク内を200mトラックのある芝生広場として整備(噴水などを除去)  
・子どもの遊び場、イベント会場としての利用が可能
- (3) 市民の健康増進への取組  
・新選手管理棟のトレーニングルームの市民利用  
・市民の健康増進・サイクリススポーツの普及に向けた取組

## 5 再整備後の競輪事業運営について

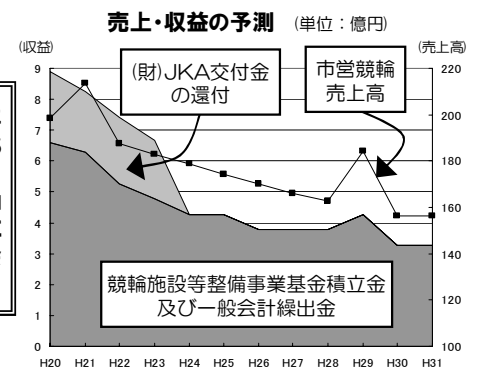
### (1) 再整備による経営体質強化

- 1) 再整備による経費節減  
・施設の再編効率化による清掃費などの経費節減  
・事業運営体制の見直しによる運営管理費の節減
- 2) 場外発売の積極的展開による収益向上  
・場外発売の積極的展開は、花月園競輪場廃止に伴い平成23年度から積極的に取組

### (2) 競輪場の魅力の維持・向上

- 1) 若者など新規ファン取り込みによる入場者数の増
- 2) 高収益を見込める特別競輪開催に伴う収益力の向上

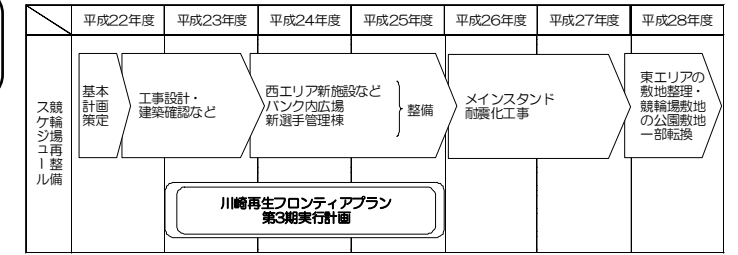
- 収益力向上で、平成30年度以降も、年平均で約3.5億円の収益を見込
- 事業収益により、「将来のコンパクト化」など施設整備に向けた基金積立と、一般会計への繰出を実施



## 6 「第1段階のコンパクト化」整備のスケジュール及び財源

- 「第1段階のコンパクト化」に伴う整備は平成28年度末の完了を目標
- 競輪場再整備は、競輪施設等整備事業基金の範囲内で実施
- 再整備の各段階において、大規模集客施設としての安全性に配慮

西3号投票所・シアター席については、当面の間は現状のまま活用し、富士見公園の整備時期と歩調をあわせ、公園利用者が富士見公園側からも利用できる機能を有し、かつ、競輪事業でも活用する施設として、公園のエントランスやバスロータリーと一体的に整備することを検討



## 7 将来のコンパクト化

- 第1段階のコンパクト化実施により、経営体質の強化と、持続可能な運営体質の確立を推進  
⇒全国トップクラスの競輪場としての地位を維持
- 競輪事業制度の方向性を見極めるとともに、事業環境の変化を見据えた川崎競輪の検証を行うなど、持続的な競輪事業の運営について継続的に検討

### 「将来のコンパクト化」

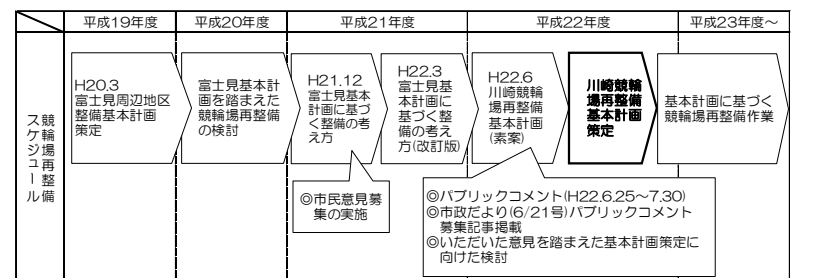
- 「将来のコンパクト化」の実施においては、メインスタンドの建替えなど「さらなるコンパクト化」を進め、敷地の公園区域への転換面積を増加
- メインスタンド建替えに当たっては市民の多目的利用を推進
- 「将来のコンパクト化」については、まちづくりの視点や長期的展望を視野に入れた将来の競輪場のあり方を踏まえて検討

## 8 今後の事業スケジュール

川崎競輪場再整備基本計画(素案)についてパブリックコメントを実施(H22.6.25~7.30の36日間)

川崎競輪場再整備基本計画を策定

基本計画に基づく競輪場再整備の推進



# 競輪場再整備基本方針概念図・「第1段階のコンパクト化」後の競輪場施設配置の変化

## 競輪場再整備基本方針概念図

●メインコンセプト ~ 競輪場再整備は、既存バンクを活用し、次のメインコンセプトに基づき段階的に整備を行い、市民に親しまれる競輪場として富士見公園との共存・調和を図り、魅力と活気あふれた施設としてサイクルスポーツによる賑わいを創出するなど、富士見周辺地区の魅力を高め、まちづくりに貢献します。~

### I 公園との一体感を感じられる空間づくり

### II 持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり

#### ○第1段階のコンパクト化

公園と共存・調和する機能を有する競輪場へ

#### ●サブコンセプト

- ① 公園と調和した市民が入りやすい環境づくり
- ② 市民と競輪ファンが楽しめる施設づくり
- ③ 市民開放・市民利用の推進
- ④ スポーツ・健康増進エリアとしての施設づくり
- ⑤ 公園の防災機能充実に向けた貢献

#### ●サブコンセプト

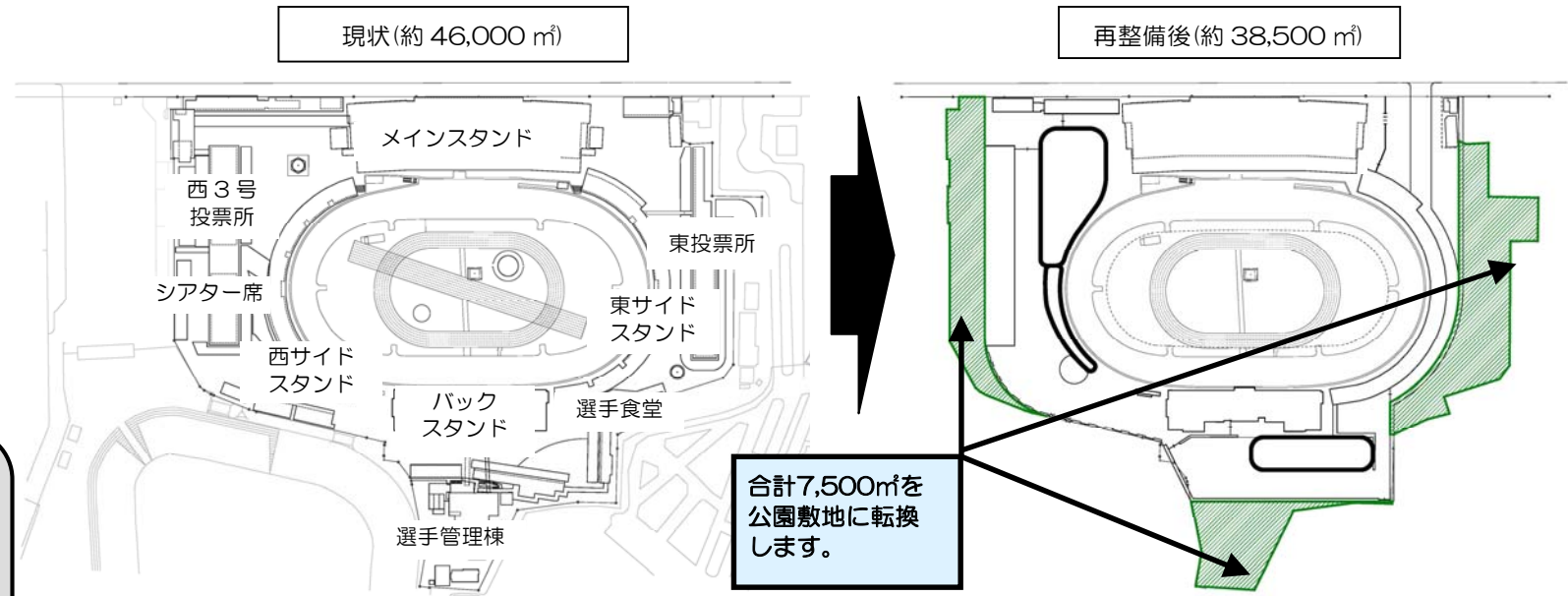
- ① 市財政貢献に向けた収益力の強化
- ② 川崎競輪場の魅力の維持・向上
- ③ 集客力に応じた施設の再編・最適化
- ④ 事業内容に即した機能の集約・効率化
- ⑤ 環境に配慮した施設・設備のリニューアル

多目的利用が可能な市民に親しまれる競輪場へ

#### ○将来のコンパクト化

- メインスタンドなどの建替により、さらなるコンパクト化の実施及び多目的利用の推進
- 持続的な競輪事業の運営について継続的に検討

## 「第1段階のコンパクト化」後の競輪場施設配置の変化

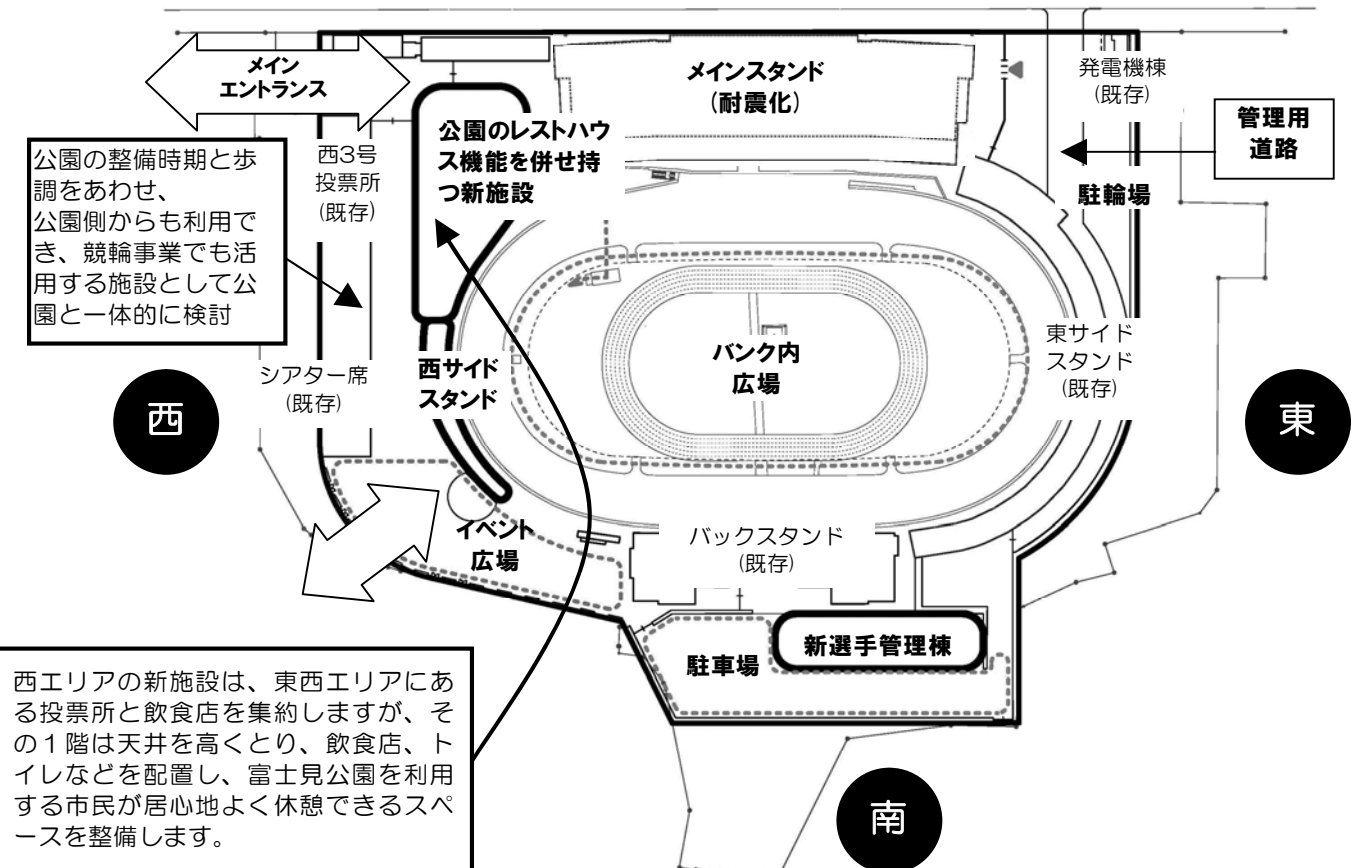


現在の競輪場の基本的機能

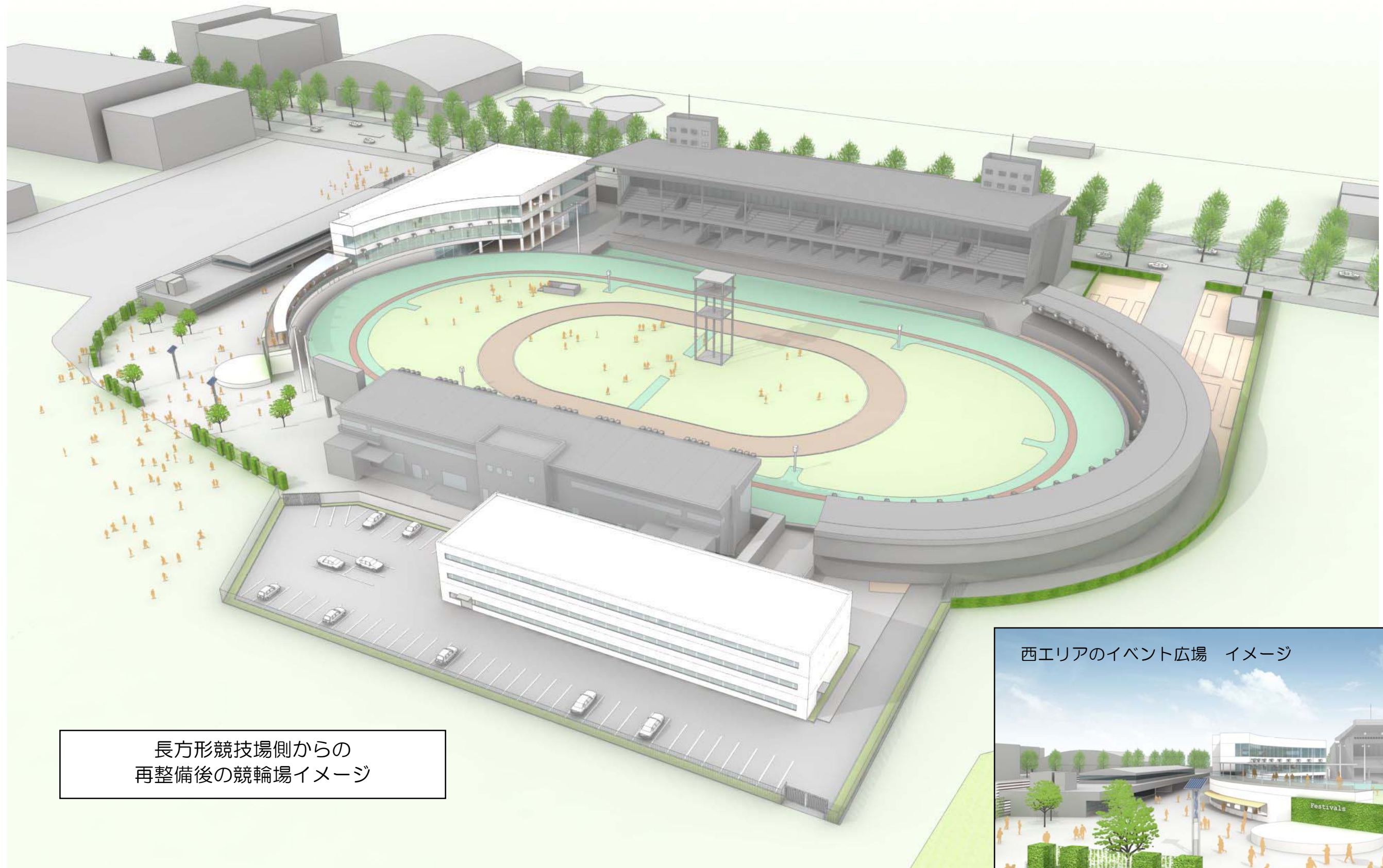
- (1) 収容人員約51,000人 (2) 投票所窓口300窓 (3) 飲食店数20店舗

再整備後必要な競輪場の基本的機能

- (1) 収容人員約20,000人 (2) 投票所窓口250窓 (3) 飲食店数20店舗



# 再整備後の競輪場のイメージ



長方形競技場側からの  
再整備後の競輪場イメージ



西エリアのイベント広場 イメージ